

ウェルネスウォーキングイベントによるアフターコロナにおけるアウトドアツーリズムの可能性

大阪国際大学 学生：川幡文貴、松原弘明、水野翔太、松岡朋歩、與能本匠悟 指導教員：横山誠

背景と目的

大阪国際大学では2018年からウォーキングコース開発プロジェクトをスタートさせたが、コロナの影響により集客を行う事が出来ていなかった。今年度コロナが落ち着き、幅広い世代の方を対象にウォーキングコースを歩いて頂き、ウェルネスウォーキングの効果検証を行った。また、食文化体験による地域活性化の可能性、自分達が考案したクイズラリーの満足度を調査した。

取り組んだ課題

ウォーキングだけでなく、幅広く多くの参加者に楽しんで頂けるような取り組み（食文化体験と休憩スポットの設置とクイズラリーの作成等）に取り組み、アウトドアスポーツツーリズムの可能性について検討を行った。

活動概要

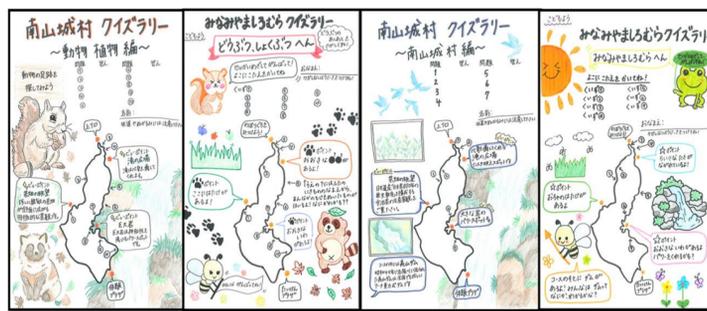
参加者属性

子ども、ファミリー、障がい児、大学生、中年層、高齢者、企業

効果測定



クイズラリー



コース整備



食文化体験

森林ウォーキングだけでなく、村内の他の資源を活かした体験を考え、地元特産品を使用した食文化体験で地域活性化や観光促進の新たな可能性を検討した。

休憩スポットの設置

ウォーキングコース内に休憩スポットを設け、参加者の体力レベルに合わせて休息を取れる場を検討した。

クイズラリーの作成

ウォーキング体験中に、さらに南山城村の関心を深めるために、楽しく臨めるようなクイズ（歴史や文化、動植物）を活用し、プラスアルファの付加価値を検討した。

課題に対する成果

食文化を体験した参加者からは、「地元の食文化体験があると、参加してみたいという気持ちになる」といった感想を頂いた。食で地域活性化に繋げる可能性があることが分かった。

休憩スポットを設けることで、高齢者の参加者から「気持ちよく休憩して行ける」という感想を頂き、自分のペースで森林をより楽しみながらウォーキング体験を楽しむことが理解できた。

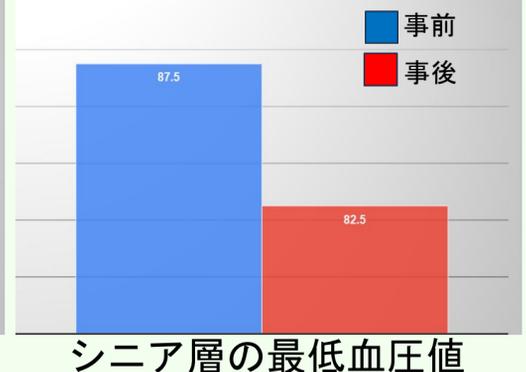
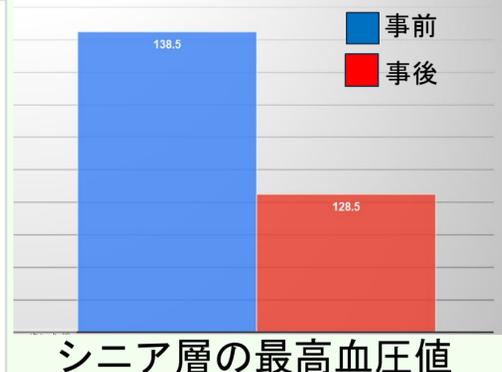
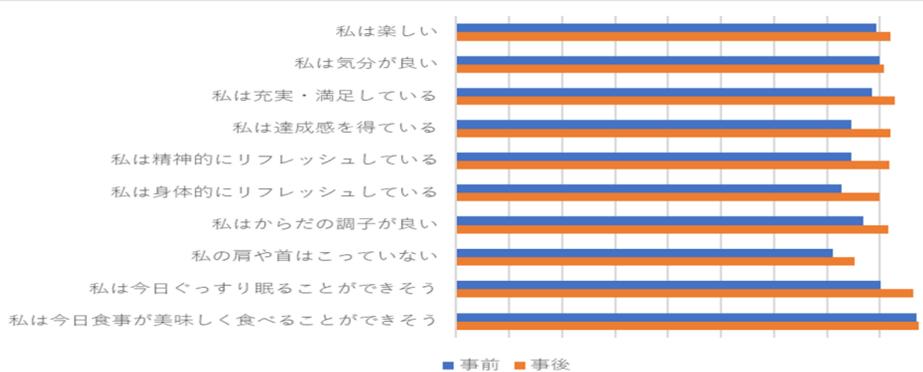
クイズラリーを行うことで、参加者から「知らなかった!」といった声や、子どもたちからは「楽しかった!」という感想を頂いた。コミュニケーションが促進され、脳トレにもなり、村の歴史や文化、自然の豊かさ等、楽しく知ってもらう事が出来た。

取り組みに対する私達の想い

運動後、南山城村の特産を使ったしいたま焼きや抹茶のスイーツを食べて頂き、お腹の足しになり、参加者の皆さんに喜んで食べていただくことが出来た。しいたけや抹茶など好き嫌いがあつたが、スイーツやしいたま焼きにする事で美味しく食べて頂く事が出来た。

一部の高齢者には、ハードなウォーキングコースだったようだが、休憩スポットを活用して下さる方が多く、設置して良かったと感じた。今後は少し横になって、自然に身を置けるような休憩スポットも設けたい。

幅広い世代の方々にクイズラリーに参加をして頂いた。コミュニケーションも増え、ウォーキング体験自体が楽しくなったように感じた。楽しく、みんなで地域の事について学べるということは非常に頭にも入りやすく良いと感じた。



まとめ

- ①子供からシニアまで自然、食文化、地域特性に触れていただき、シニア層には心身共に効果が見られ健康増進のエビデンスをえることができた。
- ②ウェルネスウォーキングだけでなく、その他の取り組みにも挑戦しアウトドアツーリズムの可能性を示唆することができた。
- ③地域のイベント等で積極的に活用していただき、地元住民の認知度や愛着を高めていくことが求められると感じた。
- ④様々なニーズに対応した更なるアクティビティの開発が必要であると感じた。